

D 24 短期大学における住環境教育の充実に関する研究 (第2報)

短大生の「住居学」についての意識

江南女子短大 ○三島由美

高橋啓子 飯島直美 長沢由香子  
市印学園短大 松葉素子

聖徳学園女子短大 新田米子

目的 本研究の主旨は第1報に準ずる。本報では短大生の住居学についての意識の解明を試みる。

方法 第1報に準ずる。

結果 短大生の住居学についての意識に関する主な結果は次のとおりである。

1) 「住居学」はどのくらい重要な科目かについての学生の意識に関して分析した結果、学年、専攻の如何にかかわらず5割以上の学生が「重要である」とし、「重要でない」とする学生は1割以下であった。

2) 「住居学」履修の有無によって住居学に対する意識に差がみられ、履修済みあるいは履修中の学生は履修していない学生よりも住居学を重要視する傾向がみられた。

3) 住居学をまだ履修していない学生の住居学に対する期待度に関しては、「期待している」が約1割に対し、「期待していない」が約3割となっており、「住居学」に対する学生の期待はかなり低い。

4) 住居学の時間数は週1コマの短大が圧倒的であるが、それに対して「ちょうどよい」あるいは「わからない」とする学生が大半を占めていた。

このほか高校までの「住居」に関する学習記憶および短大での「住居学」履修後の感想など学生の意識の現状について報告する。